清洲城下町遺跡
発掘調査通信 2017

平成２９年９月18日

（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
株式会社 波多野組

１．はじめに

清洲城下町遺跡の発掘調査は、五条川に関わる総合治水対策特定河川事業に伴う事前調査として、平成２９年７月より進めて参りました。皆様のご理解とご協力により、発掘調査をこの９月１日をもちまして無事終了することができました。新たにわかりました主な調査成果を報告致します。

↑発掘調査区の遠景（東より）

２．発掘調査の成果

このたびの調査は、五条川の船杁橋の東に続く道路の南で、西側を 17A 区、東側を 17B 区として調査しました。見つかった遺構（いこう）と出土遺物（しゅつどいぶつ）には奈良（なら）時代から江戸（えど）時代の大きく３時期のものがありました。

（１）奈良（なら）時代（今から約 1,300 年前～ 1,200 年前）

遺構は見つかりませんでしたが、戦国時代の遺構から須恵器（すえき）が見つかりました。17A 区の下層の砂の中からほぼ完全な状態で須恵器の鉢（はち）が出土しました。砂の地層は昔の河川が流れた地層であるので、付近の場所から流れてきたものと考えらえます。

↑ 17A 区の下層から出土した須恵器の鉢

（２）鎌倉（かまくら）時代（今から約 800 年前～ 700 年前）

奈良時代と同様で遺構は見つかりませんでしたが、戦国時代の遺構や下層の河川の砂の地層から山茶碗（やまちゃわん）と小皿（こさら）、甕（かめ）が見つかりました。

問い合わせ先：愛知県埋蔵文化財センター　調査課　蔭山　　電話：0567-67-4163

（3）戦国（せんごく）時代から江戸時代前期（今から約 500 年前～ 300 年前）

井戸（いど）1 基、溝（みぞ）3 条、土坑（どこう）59 基、自然流路 1 条を確認することができました。この中で 17B 区で見つかった自然流路が最も古く、東北東から西南西に流れていることがわかりました。その後自然流路に重複して、井戸や溝が掘られており、ゴミ穴と思われる土坑が溝やその周囲に多数見つかりました。井戸は中に結桶（ゆいおけ）が据えられていて、井戸の擁壁（ようへき）と水溜め（みずため）を兼ねていたものと思われます。また、溝は調査区の北西を区画しているようにめぐっており、井戸や土坑と重複するものもあることから、城下町の盛んな営みが推定されます。

出土遺物には、灰釉（かいゆう）や鉄釉（てつゆう）で施釉された壺（つぼ）・天目茶碗（てんもくちゃわん）・皿（さら）・擂鉢（すりばち）、磁器（じき）の小皿、土師器（はじき）の鍋（なべ）・皿・小皿、瓦（かわら）などがあります。

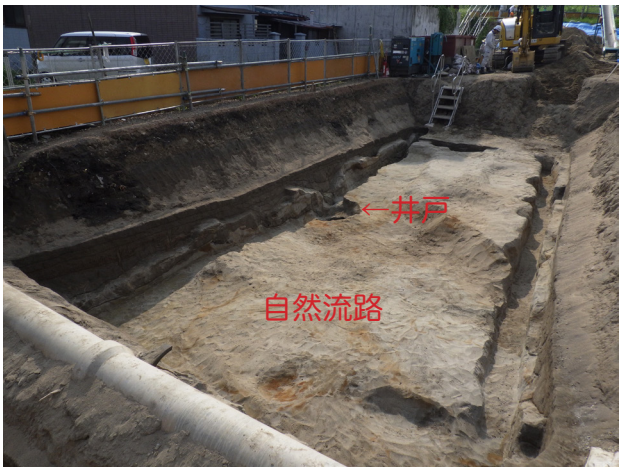
3．まとめ

清洲城下町遺跡は、これまでに多くの発掘調査が行われ、江戸時代の古城絵図などを参考に戦国時代のおおよその姿が復元されています。今回の調査地点は 16 世紀末～ 17 世紀初頭における清洲城下町遺跡の中で、中堀と外堀の間にある町家推定域の地点に当たります。その一部を確認できたのみですが、戦国時代にさかのぼる河川の痕跡と思われる自然流路や 17 世紀初頭頃に営まれた区画溝や井戸、土坑を明らかにすることができました。今後は調査した記録と出土遺物の整理を行い、清洲城下町の歴史について明らかにしていきたいと思います。

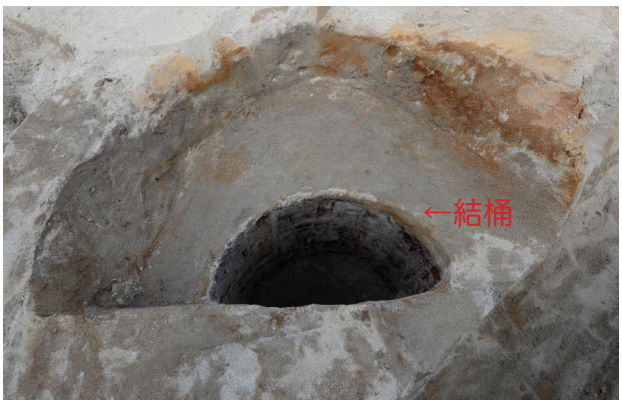
最後に、近隣住民の皆様、関係者の皆様には多大なご支援を頂き、誠にありがとうございました。今後ともご理解・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

↑ 17A 区東側全景（北西より）

↑ 17A 区の土坑の擂鉢出土状況（南より）



↑ 17B 区下層の自然流路 064NR（北東より）



↑ 17B 区の井戸 060SE（南西より）

↑ 17B 区下層の自然流路より出土した灰釉皿（北東より）